

令和2年9月27日

JARL渡島檜山支部第1回役員会

- 1 支部長挨拶
- 2 役員の自己紹介(他傍聴者がいれば傍聴者も)
- 3 支部規約の協議
- 3 総務幹事、総務副幹事、会計幹事の互選
以下総務幹事が司会、総務副幹事が記録を担当する。
- 4 議事
 - (1)JARL社員会議について(支部長) 若干の協議
 - (2)支部運営方針の協議(支部長) 十分協議
 - (3)それぞれの事業の役割分担
 - (4)次期会議の予定の確認
 - (5)その他(会員、傍聴者からの提案)
- 5 閉会

令和2年9月27日
JARL渡島檜山支部長
佐々木 朗 JH8CBH

ご挨拶

夕暮れが日々早くなり、秋の深まりを感じさせる候となりましたが、本日もご参集の役員の皆様におかれましては、益々、ご清祥のこととお慶び申し上げます。また、役員に手を挙げて下さったことに、深く、深くお礼申し上げます。

さて、この度の選挙で、JARL渡島檜山支部長に信任していただきましたJH8CBH佐々木朗と申します。中学生の時にアマチュア無線に出会い、多くの諸先輩に、そのイロハを学んで参りました。そして歳月が流れ、教わる立場から、次代のアマチュア無線家を育てる立場へ変わりつつあることを自分自身で感じておりました。支部長として渡島檜山支部の繁栄のためにリーダーシップを執ることは、私を育てて下さった諸先輩への恩返しになると思ひ、立候補を決意した次第です。就任一か月の新米の支部長ではありますが、アマチュア無線に対する情熱は誰にも負けないつもりです。

私の心に「現状維持は、衰退である。」という言葉があります。前年度踏襲を否定するわけではありませんが、常に新しい発想、新しい取り組みをしていくことが支部の活性化につながることに信じて諸事業を実施して参ります。

支部長立候補に当たり、私がみなさんに約束したことは、次の5つです。

- (1) 前例にとらわれず、会員の親睦や技術向上になる行事を積極的に推進する。
- (2) 支部会員への情報発信を積極的に行う。
- (3) 新規に開局する方が増えるよう、あらゆる機会をとらえ、アマチュア無線の楽しさをPRしていく。
- (4) アマチュア無線の世界に戻ってくるようカムバックハムを応援する。
- (5) バンド内の監査指導を積極的に進める。

これらの公約を具現化し、説明責任を果たせる結果を皆さんにご報告できるようがんばります。

役員の方へお願いがあります。「お手伝いする。」という意識は捨てて下さい。役員は、JARL渡島檜山支部という船の航海士であり、機関長であり、通信長であってほしいのです。それぞれが船長の指揮のもと、自分の持ち場に責任を持ち、業務を推進するような組織を目指していきます。組織として動くことを大切にします。もちろん船長である私も一緒に悩み、一緒に考えていきます。計画立案から実施まで責任を持って担っていくのは、容易いことではないことは重々承知です。しかし、結果を出せた時の喜びは、アマチュア無線家としては最高のものと信じています。

本日の会議では、「支部の発展のため」「アマチュア無線の繁栄のため」「そしてJARLの発展のため」という観点で積極的に意見を交流し、運営方針案を審議していただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

令和2年度 日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部運営方針(案)

日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部

支部長 佐々木 朗 JH8CBH

はじめに

私がこれまで歩んできた45年間に渡るアマチュア無線との付き合いで、アマチュア無線がキングオブホビーと言われて、たくさんの方が開局して、最も栄えた時代から、だんだんと斜陽化していく歴史を自分の肌で感じてきました。歴史をひも解いていくと、今後の未来が見えてきます。アマチュア無線の未来が、明るいものになるよう私の知見、そして、会員の皆さんの願いや思いを受け止めながら、日本一の支部を目指して、支部の運営を担っていきます。「現状維持は後退」という意識を常に持ち、一つ一つの事業に対して、工夫をしていきます。また、以下に詳細に述べる事業の具体案ですが、このとおり実施してくものもありましようし、やめる、また大きく修正していくということもあります。さらに、ここに示していないものであっても、アマチュア無線の普及発展のためになるものであれば、どんどん取り入れていきたいと思えます。

一方、今、新型コロナウイルスの感染が日本全国に押し寄せ、アマチュア無線に関わる行事も中止や延期を余儀なくされております。事業の推進については、状況を見ながら判断していきます。今後新たに実施できない行事も出てくることも予想されます。

さらに、以後、支部の運営方針を掲げますが、私は、教員をしており、退職まで最後の一年となっており、教員と支部長という二足の草鞋を履くことになり、本年度は、最初から全力疾走というよりも、その助走という段階になることをお許し下さい。

JARL渡島檜山支部長という職は、縁があって一度拝命することになりましたが、生涯一度は受けてみたかった職でもあり、以下に掲げる運営方針を実行に移して参ります。2年の任期で勝負と思っておりますが、与えられた2年間の任期だけでは達成できないものもあるかもしれません。皆様の信頼を得るならば、私の今のアマチュア無線に対する情熱が、年齢的、体力的に限界になるまで、がんばるつもりでありますので、どうぞ、よろしくお願ひします。

1 運営の目標

JARL 渡島檜山支部を活気がある支部にする。多くの人がこの素晴らしいアマチュア無線という趣味に出会い、楽しめる環境づくりに努める。また、アマチュア無線が社会に役立つ存在になるよう努める。

2 運営の重点

(1)前例にとらわれず、会員の親睦や技術向上になる行事を積極的に推進する。

- (2)支部会員への情報発信を積極的に行う。
- (3)新規に開局する方が増えるよう、あらゆる機会をとらえ、アマチュア無線の楽しさをPRしていく。
- (4)アマチュア無線の世界に戻ってくるようカムバックハムを応援する。
- (5)バンド内の監査指導を積極的に進める。
- (6)アマチュア無線の社会的役割を果たす

3 具体的構想

(1) 支部運営の組織としての明確化

支部の内規を定め、支部長を中心に各役員が組織的に活動するようにします。なお、役員会には、会員は傍聴し、必要に応じて意見を述べる事が出来る様にしたと思います。また、役員会の内容は公表していきます。

別掲 1

(2) 役員について

役員は、渡島檜山支部の代表です。私が皆さんに約束した「渡島檜山の空を賑やかにする」を具現化していくためのトップ集団です。仕事はたいへんかもしれませんが、渡島檜山支部が全国一アクティブな支部になった時は、きっと役員をやっていて良かったと思う事が出来る様な仕事を一緒にしていきたいと思っています。

① 支部役員 の 条件

- ア.アマチュア無線に対して情熱がある方。
 - イ.アマチュア無線を楽しんでいる方
 - ウ.支部諸行事に参加、また、諸業務の運営に協力して下さる方
- 当たり前ですが、JARL会員で、免許が切れていない方です。

② 選出方法

役員を引き受けて下さる方は、手をあげてください。現役員ももう一度任を受けて下さる方は手をあげてください。本年度は最初なので、全会員に役員募集を周知します。ネットで募集が伝わらなかった方は、ハガキを出しますが、経費節減で、できるだけネット環境は大事にしたいです。

役員の数、何人かということも決めていません。引き受けていただける方で、協力して、支部運営を進めたいと思っています。ネット上で、打ち合わせすることもあるかと思いますが、協議事項については、休みの日を調整して、なるべく会って話し合いをしようと思っています。

任期は、私の任期と連動しますが、任期途中で任命することもありとします。

(3) 情報の発信について

私は、この度の選挙に関わり、コールブックを見ながら、データベースを作成しました。そこでわかったのが、一度も交信したことがない、また、コールサインさえ聞いたことのない方が半数近く会員登録されていました。このような方がどのようにアマチュア無線を楽しまれているか、また、そうでないか私は知る由もありませんが、支部の貴重な会員であることは間違いありません。私は、支部に籍を置くすべての会員に対して、一定の支部の情報を届けるのが責務であり、会員意識を継続するためには、大切なことであると思います。

そこで、第一の改革ですが、これまで支部報については、会員皆さんが目にするようにしたいと思います。これまでは、ダウンロードが原則で、希望した方のみを郵送としていました。これを切り換え、原則(デフォルト)を郵送(または、配達)とし、ダウンロードをしていただける方には、郵送をしないという方法に切り替えたいと思います。支部報だけが、支部と会員のつながりであるという会員も多いと思うからです。もちろん、限りある支部財政ですので、ダウンロードに協力をお願いするところですが、インターネット環境のない会員も大切にしたいと思います。

次に、支部報以外においても、不定期ですが、支部の話題を情報誌として発信したいと考えております。これも、ネット環境のある方は、ダウンロードで、それ以外の方で、希望者には郵送したいと思います。

私は、支部財政のうち通信料を十分確保し、インターネット環境の有無で情報量の差別化が起こらないように努めます。

さらに、社会にアマチュア無線の意義が伝わるようにあらゆる機会をとらえて、マスメディアにも、我々の活動を伝え、アマチュア無線が十分な市民権が得られるよう、また、新たに免許取得につながるような動きを取ります。

一方、インターネットを使った情報発信についても、これまで通り力を入れて参ります。行事の案内やその実施状況はもとより、これまでの活動状況、一般市民向けに作成した資料なども、データベースとして蓄積していきたいと思います。また、自由なやりとりができるOHS(Oshima Hi-yama Shibu)、及び支部からの連絡用のOHBの二本立てのメーリングリストでの情報交流及び発信にも力を入れて参ります。

(4) アマチュア無線のことがわかる資料を作成

広く人々にアマチュア無線の楽しさを知ってもらうためには、一言では、また、パンフレットの一枚ではなかなか伝わりません。予算はかかりますが、各方面で楽しんでいる方々の運用をDVDで紹介していく資料を作りたいと思います。これを外部に対してのメインのPRとして使いたいと思います。また、地元のハムショップにお願いして、予算別のシャックづくりなどの資料を準備したいと思います。これらの資料を多数用意し、アマチュア無線との縁に触れた方、例えば、講習会受講者、記念局運用で立ち寄って下さった方、電波教室、青少年のための科学の祭典、各種のアマチュ

ア無線をPRできる会合等で、配布していきたいと思います。

別掲2

(5) アマチュア無線を楽しむ方の新規開拓について

いろいろな年齢層の方々がアマチュア無線との縁に触れるよう、青少年のための科学の祭典をはじめ、ラジオ作り教室、敬老クラブの会合などで、アマチュア無線のPRをし、種を蒔いていこうと考えております。

私は、大きく二つの方向を考えています。一つは、若い世代への普及です。一番の楽しみは、ゲームと答える子どもが多い昨今です。ゲームにおいても、どうやって戦略を立てていくかを考えるなど、楽しみもありましょうが、やはり、画面上でのみ楽しむということで、感動は得られにくいと思います。私自身の青少年時代の過ごし方を振り返り、青少年にモノづくりの楽しさを伝え、また、人とのコミュニケーションのツールとしてのアマチュア無線の楽しさを語っていきたいです。

もう一つの方向性は、シルバー世代への普及です。現在のアマチュア無線家の平均年齢は、60歳代と思われます。私は7メガあたりでよく交信をしておりますが、社会での第一線を退き、第二の人生の趣味として楽しまれている方を多く耳にします。年代的には、話も合うでしょうし、一人暮らし、また、夫婦二人になって、人とのコミュニケーションが少なくなってしまう方にもお薦めと考えております。

このように二つの方向性を持ちながら、新規のアマチュア無線家の開拓に努めてまいります。

(6) カムバックハムの支援について

HF で交信していると、よく「何十年ぶりに開局しました。」という声を聞きます。函館はかつて、連絡船の街、漁業の街として、無線に関わる仕事をしている方も多数いて、そのこともあってか、アマチュア無線の方もかなり栄えていたという話をよく聞きます。また、昭和40年代後半からは、かなりの頻度で養成課程講習会が開催され、多くのアマチュア局が誕生しました。しかしながら、進学、就職、結婚、子育て、転勤、家を建てるなど、人生のそれぞれの節目に当たり、アマチュア無線から遠ざかってしまった方も多いうように思います。過去のコールブックや交信歴などから、第一線から遠ざかった方々に上記の資料を送る、または、面接するなどを通して、もういちどアマチュア無線の世界に戻ってくることを薦めていきます。

(7) 地域クラブをはじめとする組織の活動の活発化

私は、「組織」というものを大切にしたいと考えます。組織というと、個々人の自由が束縛されるようなイメージを持つかもしれませんが、組織は、よりローカル局同士の結びつきを深めるためには、重要な役割をもつと考えます。

私のこれまでの無線歴において、クラブに所属し、切磋琢磨し、教えてあげたり、教えてもらったりということで、組織の大切さは、身に染みて感じております。私は支部長として、リーダーシップを執り、アマチュア無線家を増やしていこうと思います。しかし、渡島檜山全体の会員の一人一人の無線の活動状況を把握することは難しいと思います。お一人お一人が、無線を楽しんでいらっしゃるか、次第に無線界から離れつつあるのか、支部として把握しきれないと思います。

そこで、私は、誰でもが所属できるような地域クラブをしっかりと組織できるよう、策を打っていきたいと思います。それぞれの地域の誰でもが入ることができる地域クラブ、また、専門クラブに入っただき、アマチュア無線の面白さ、醍醐味を語ってもらい、よりアマチュア無線を楽しんで頂けるようにしたいと思います。組織ですから、「最近どう？」などと所属会員に声をかけることにもつながっていくと思います。

そのために大切なことは、何か、それは組織を引っ張っていくキーになる人です。情熱を持った人がキーになると、その輪は広がっていきます。そんな人材育成をすることが、まず第一歩かなと思っています。

特に地域クラブの活動ができるよう働きかけます。

(8)講習会

アマチュア無線を楽しむ方の人口を増やすために、支部自体で、また、関係諸団体と連携するなどして、積極的な養成課程講習会の実施を目指します。

(10)飲みにケーション

かつて、「2mを盛り上げる会」などと称して、ローカル局が懇親会を開いた時期がありました。これも昨今の状況を鑑みるとすぐには実施することができないであろうが、無線を通しての交流以外にも、小集団で集まってのコミュニケーションなども大切にしていきたいと思います。ゆくゆくは、各クラブの方での企画にもっていけるようにしたいと考えます。

(11)スキルアップ

自己訓練という観点から、まず、ライセンスのスキルアップを提案していきます。希望される方に対して、第二級、第一級アマチュア無線技士国家試験に向けての勉強会を開催していきます。また、モールの講習についても、希望があれば実施していきます。

また、私たちの電波は遠く海外まで届きます。アマチュアコードに、「国際的」という言葉があります。海外との交信も視野に入れ、希望される方には、英語での簡単なQSOの仕方などの勉強会も開催したいと思います。

さらに、昨今、コンピュータとアマチュア無線の接点が非常に大きくなってきていま

す。HAMLOG、FT-8、デジタル通信、E-QSL、H-QSL、コンテストへのログの書き方、また、関連して、リモートデスクトップによるサポートなど、研修を進めていきたいと思います。

(12)アマチュア局の免許が切れている会員への対応

調べてみたところ、当支部には、JARL会員であってもアマチュア局の免許が切れている方が20名おります。復活していただくことを望みますが、そうではない場合、JARLの規定により、准員に移行していただく、または、会員をお辞めになるかなどのお話をしていきます。JARLの会費が、少しでもアマチュア無線を楽しんでいる方のために使われてほしいからです。

(13)一社員として、JARLの発展に寄与する業務

JARLの社員として、また、北海道本部の役員としての任務も担っていくこととなります。現在JARLでは、お金の使い道、会員減を始め、多数の課題を抱えている現状があります。私は、支部の責任者として、支部内のアマチュア無線を楽しむ方を増やす、それと共にJARL会員を増やすということで、責務を全うしていきたいと思えます。同時に、JARLの社員として、JARLそのものの運営に関しても、意見を述べる立場となりました。私は、政治力があるわけではありませんので、大きな運動を巻き起こすつもりはありません。その一方、判断を求められるような議案があがった場合には、支部会員の皆様のご意見を聞き、役員会でも協議し、最終的に、私が判断し、議決権を行使いたします。

4 諸事業の構想

(1) 支部大会・ハムの集いについて

従前通り、函館近郊(旧函館市、七飯町、北斗市)とそれ以外の交互開催を原則としたいと思います。ただし、本年度は10月4日に予定していた支部大会及び関係事業を、コロナ禍根で感染防止の観点から、全て中止にすることにしました。

次年度の構想ですが、抽選会は「なし」にしようと思っています。その理由は、①抽選を目的に来る方がいないと思われること(抽選がなくても、参加人数が減ると考えにくい)、②特賞の無線機が支部財政のかかなりの財政負担になっていること、③もらっても困る賞品も多数あること、などです。この分の予算を会員への情報発信やアマチュア無線のPRのために使っていきたいと思っています。また、抽選に代わって、会員が、持ち寄った品物のオークションなども考えてみたいと思っています。

また、会費1500円程度で、立食パーティーを行い、昼食とし、前夜祭に代えることを考えています。皆さんの意見を伺ったうえ、決めていきます。

従前通り前夜祭を実施する際には、できるだけ安価な予算で、多くの方が参加できる会にしていきたいと思っています。函館近郊の町内会の会館などをお借りし、オードブルやビールサーバーを準備して、参加者で準備し、参加者で後始末するような体制で考えてみます。

また、当初は伊藤支部長の勇退激励の会を任期終了直後に予定しておりましたが、昨今の事情により、機会を作って、伊藤前支部長に対する感謝の意を表したいと思っています。

(2) 電波教室の開催・青少年のための科学の祭典参加について

昨年、私は、私の勤務する厚沢部町において、電波教室を開催しました。この催しは、北海道電波適正利用推進協議会の協力のもと、ラジオキットを提供していただき、10名の子どもたちにラジオづくりを指導しました。今後も北海道電波利用推進協議会と連携しながら、渡島檜山各地で、電波教室を開催し、電波の正しい利用の啓発及び、ラジオ作りを行い、子どもたちの科学の芽を育てていきます。

また、青少年のための科学の祭典も継続事業とし、青少年にモノづくりの楽しさを味合わせて

(3) コンテストについて

渡島檜山支部コンテスト及び津軽海峡コンテストについて、規約や方法を見直していきます。これは、会員の皆さんや役員意見を聞きながら、最終決定していきます。この2つのコンテストについては、役員は、全員参加することを原則とします。できるだけ多くの方に参加いただき、また、ログを提出していただき、コンテストを盛り上げていきます。

① 津軽海峡コンテスト

これまでの役員会でも見直しの必要性があげられていましたが、津軽海峡コンテストについては、QSOパーティーに重ねて行うことを検討してみたいと思います。参加数は多くなると思いますが、その一方、冬季のため、移動運用には適しない時期となることもあり、広く意見を募りたいと思います。ルールは、現状通りとします。移動運用については、渡島檜山支部コンテストで楽しんでいただきたいと思います。

②渡島檜山支部コンテスト

移動局において、自局が移動した場所もマルチとなる規約にしましたが、規約は単純明快の方がいいと考え、一般的コンテストのものに戻します。48時間ですが、期間についても、24時間勝負ぐらいが適切かと考えます。また、移動局の参加を進めるために、フィールドコンテストのように、いわゆる「移動運用」に係数をかけるなどの方法も検討します。

今回、私が交信した方、全員にjarl. comのメールでログ提出をお願いしました。十人十色という型式でしたが、150名を超える全国の皆さんからログを提出いただき、「支えられているなあ」感、いっぱいでした。その一方、ログの提出の90%が私との交信のみでした。やはり支部コンテストは私たちの支部の最大の無線のお祭りでもあり、支部会員が積極的にオンエアし、お互いに「おもてなし」の心で会うティビティを高めていくことが課題であり、大切なことであると思います。コンテスト担当を決めたいと思います。

③北海道コンテストについて

北海道コンテストは年齢符号により得点が変わります。(10代がAで1点、20代がBで2点・・・)実態として、60代、70代の高得点の参加者高く、若い年齢層の参加がほとんどいないという現状があります。私は、希少な若い年齢層の得点を高くし、若い方々の参加を助長していくのが良いと考えます。

(4)ロールコールについて

ロールコールは、継続事業とします。参加者のエントリーについては、5分程度で終わるように、スピーディーに行います。内容は、これまで通り、支部からの連絡、身近な話題の交流とします。また、未交信の局同士の出会いの場となるように、ロールコール後の交信のお誘いの場を設けます。管外の局のエントリーも受けませんが、グラウンドプレーンで取れる位の範囲を原則とします。キー局は、役員をはじめ、いろいろな方に経験していただく予定です。

別掲3

(5) アマチュア無線に関する講座

アマチュア業務には、「通信及び技術的研究の業務」と謳われております。この講座は、アマチュア無線家にとって、新しいことを知る、また、これまでの伝統を確認す

るという大切な機会ととらえます。スクール型式で、主に話を聞くものもあれば、物作りをするもの、また、体験や実習をするものなど、いろいろな実施方法が考えられます。本年度については、まだ、具体的な構想は立てていませんが、当日参加できなかった方にも内容が伝わるよう、情報発信をしていきたいと思いをします。

またテーマを絞った数人規模のミニ講習会の実施も考えていきたいと思いをします。

(6)フォックスハンティングについて

今年中止になりました。次年度以降ですが、2部構成で考えています。第1部は、市民参加型の部、第2部は、アマチュア無線家の部。そして懇親会という流れです。

第1部の市民参加型については、新聞などで告知し、また、親子が集まるイベントで、FMラジオを使ってのフォックスハンティングを考えています。FMラジオは、ある程度の台数は、第2部の参加者に持って来ていただき、また、告知している場合は、参加者に持って来ていただき、競技をします。保険料として、100円程度の会費とし、若干の賞品を用意します。電波の不思議さ、楽しさを味わってもらおうと同時に、アマチュア無線への縁を作ることにしたいと考えています。

第2部のアマチュア無線家の部は、真剣勝負。受信のみなので、第1部に引き続いて、挑戦する一般市民もいるかもしれません。キツネとタヌキの2匹を捕まえ、2匹の順番カードの和の小さい方から順位を付けます。

最後に、希望者で、懇親会を開きます。

(7)非常通信伝達訓練について

これまでの訓練は、災害発生直後の情報収集を行っていたが、もう少し根本的に考えていきます。また、アマチュア無線を社会貢献として知ってもらうのにも、とてもいい機会となります。

私はず、考えたいのは、非常通信の登場場面です。災害が発生した直後に、私たちが現場に駆けつけて、情報を警察や消防に送るという場面にはなかなか遭遇しないと考えます。災害が発生すると、市町村で災害対策本部が立てられます。私はこの災害対策情報本部への情報集約に寄与していくことが大切だと考えました。しかしながら、きちんとした事前協議がないと、せつかくの行為も、場合によっては、かえって迷惑になってしまうことすらあり得ます。ですから、自分たちの非常通信体制を日頃から整備すると共に、関係機関に、①アマチュア無線とはどのようなものであるか。②どのような通信機能があるか。③どのような通信体制を敷くことができるか、④災害が発生した場合においてどのような活動を行うことができるか。などを十分に説明し、災害発生時には、協力する内諾を得ておくことが必要と思いをします。そのために、函館市、北斗市、七飯町の防災関係機関と協定や覚書などを取り交わしてい

きたいと思います。

次に、私たちの側の体制づくりです。述べたように、非常通信は、災害対策本部への情報伝達を主な役割と考えます。したがって、災害発生時に、誰が、どこの災害対策本部へ駆けつけるのか、また、どれだけの会員の方が、ボランティア局として非常通信に協力できるのかを把握しておきたいと思います。現在20名が登録されています。

支部役員の新規募集と同時に非常通信ボランティアを募集しました。現在のところ20局が登録されています。これらの方を核に、危機管理計画をしっかりと立てていきます。

利用する周波数帯は、昨今修復された439.66MHzのレピータや144のFMを使うこととします。特にレピータは、函館近郊一帯において、ハンディ間でも安定した通信ができることから、積極的に利用していきたいと思います。

さらに、個々のアマチュア無線家が、停電時に備えてのバッテリー、発動発電機などの準備をし、通信ができる準備なども啓発していきたいと思います。

このへんを踏まえて、多少考える時間をいただきますが、災害時に動ける渡島檜山支部を目指します。また、本年度は上記の方針を踏まえ、次のような訓練を実施したいと考えます。

別掲 4

(8)特別局の招致について

特別局の招致については、いくつか目的があります。①その事業のPR、②呼ばれる楽しさを味わう、③オペレート技術の向上、そして、④公開運用することでのアマチュア無線のPRです。特に④については、力を入れ、できるだけ市中での運用を行い、広く市民にアマチュア無線をPRしていくことを大切にしたいと思います。

尚、情報によりますと、函館市市制施行 100 周年記念(函館市の市制施行は大正 11 年(1922 年))が、再来年 2022 年になり、8月に 100 周年記念式典が行われるという情報を得ております。

また、支部でカード発行の経費、JARLへの転送費がかかる場合は、臨時に、運用者、そして広く皆様からの寄付を募り、資金を作っていきたいと思います。

尚、北海道地方本部よりオリンピック・パラリンピックPR記念局の情報も入っておりますが、オリンピック延期に伴い、今年の運用は中止になりそうです。

この10月に8J8CLNクリーン月間の特別局が来ます。短い期間ですが、しっかりとオンエアしていきたいと思います。これも担当を決めたいと思います。

(9)監査指導について

JARL 監査指導は、次の役割を担います。

①電波障害に関する業務

- ア.アマチュア局による電波障害に関する相談受付・対策等
- イ.アマチュア無線機への電波障害に関する相談受付・対策等
- ウ.電波障害に係る実地調査

②電波のモニター

- ア.アマチュアバンド内の電波のモニター
- イ.アマチュアバンド内における侵入電波のモニター

③アマチュア無線に関する育成指導

④JARLガイダンス局の運営および管理

(JARL監査業務のサイトより)

- ①については、事案が発生しだい、情報を役員で共有し(守秘義務あり)、その対応を協議し、迅速に問題の解決に努めます。
- ②について、新たな取り組みを始めます。ガイダンス局などで、啓発しても、一時的なものに終始していることから、渡島檜山管内のアマチュア無線を使っていると思われる事業者(運送業者、土建業者、漁業関係者などが主な業種と思いますが、具体的にどのようなデータベースにするかは今後協議します。)に、アマチュア無線を使っているかどうか、使っている場合、業務に使っていないかどうか、バンドプランを守っているか、コールサインを送出しているかどうかなどの調査をします。脅しというわけではありませんが、今後アマチュアバンド内をワッチし、正しい運用が行われていない場合、電波法第80条の規定により、きめ細かく、関係当局に報告することを伝えていきます。
- ③については、支部業務全般で実施していきます。
- ④ガイダンス局については、受け持ちの期間について、適切に運用いたします。運用に際しては、陸上特殊無線技士の資格が必要なことから、免許所持者に運用を任命すると共に、役員 of 積極的、陸上特殊無線技士の免許取得を勧めます。(国家試験の内容は、第四級アマチュア無線技士よりもレベルが低く、四アマ試験の内容を押さえれば、ほぼ無勉強でも合格できます。)当分の間、支部長が監査指導委員長を兼務いたします。

今回、ガイダンス局を初めて運用しました。コールサインを言ってくれる方、ごまかす方、消えてしまう方、食いかかってくる方、でも多くの方が、「10分に1回っていうのは講習会でならったよな。」ということは覚えており、無免許の方はほんのわずかだと思います。それらのみなさんには、その業界の文化があり、名前やニックネームで呼んでいます。私はガイダンスで指導してもその日は意識があるかもしれないけれど、コールサインを言う文化になりっこないと思います。業界に直接出向いて、現場の方に生の声を伝えたいと思います。そうして、渡島檜山管内では「コールはたまに言うべ。」という文化を作り上げていきたいと思ひます。

また、講習会講師として、引き続き、入り口での指導をしっかりとして参りたいと思います。

(10) 情報管理について

① 支部のホームページについて

従前までは、20年以上に渡り、JA8IOT村井さんのサーバーで動いていました。この度、サーバーを整理したいという申し出を受け、新たにホームページを立ち上げることになりました。

<https://jarl.com/ohs/>

が新しい支部のホームページです。容量は100メガでcgiは利用できません。今後トップページはこのアドレスで、あとは、容量のあるところにリンクするなどの方法もあろうかと思います。支部ホームページは支部会員もそうですが、全国に発信していく大切なツールですので、絶えず新しい情報が掲載されるようにしていきたいです。担当者を決めたいと思います。

② メーリングリストについて

これも①で述べました事情と同じで、移行することになりました。同じくJARLの無料メーリングリストです。今回から2つのメーリングリストに分けました。理由は、支部からの連絡のみをもらいたい方と、支部の交流を深めたい方の棲み分けをするためです。

ア.OHB これは支部からの連絡専用です。原則、支部長、役員また、支部長が特にお願ひした人だけが発信することにします。一方通行にして、質問などは、個人メールということにします。今後、間違って返信されないような仕組みも求められます。

また、時間がない中の移行であり、旧OHSのメンバーをそのまま登録しました。今後JARL会員の有無、登録希望調査への回答等で、メンバーを精査していきます。10月半ばをめどに整理します。

イ.OHS 希望者が登録します。人の悪口以外は、OKです。内容とか、メールの数とかに「あーだ。こーだ」言わないという約束です。

今回、棲み分けをやってみて、多くの方は、OHBもOHSも受信するよう申請が来ました。思ったよりOHSの書き込みを楽しみにしている方もいるということがわかりました。

今後、時期を決めての、メンバーの整理(JARL会員かどうか、メールアドレスが使われなくなっているかどうか)をしていくことが求められます。また、両メーリングリストとも、管理者は、パスワードでメンバーの登録や削除ができます。

これも担当者を決めていきたいと思います。

(11)月替わりローカルアワードについて

ローカル声はよく聞こえてインだが、交信したことがないという局もいるのではないかと思います。月ごとにサフィックスでテーマに沿った文字を綴っていくというアワードを考えてみました。(TNX QYH KXI)検討いただければと思います。

別掲5

別掲1

日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部内規(案)

- 第1条 本支部は、日本アマチュア無線連盟渡島檜山支部(以下支部)と言い、事務局を支部長宅に置き、その組織及び運営等を定める。
- 第2条 本支部は、日本アマチュア無線連盟の一組織として、無線通信技術の向上、会員の友好と親睦、災害の防止の促進に寄与するとともに、アマチュア無線の普及・振興・発展を図ることを目的とする。
- 第3条 本支部は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- 1 アマチュア無線の普及・振興・発展のための事業
 - 2 電波利用の秩序の維持のための事業
 - 3 災害時に備えた非常通信の訓練及び災害時における非常通信の実施
 - 4 会員相互の友好と親睦を図る事業
 - 5 電波利用に関する知識や技能向上を図るための講習会、研究会、競技会の実施
 - 6 支部の活動の情報発信に関わる事業
 - 7 その他、第2条の目的を達成するための諸活動
- 第4条 本支部の会員は渡島檜山に住所のあるJARL会員とする。
- 第5条 本支部には次の役員を置き、その任務は以下の通りとする。
- 1 支部長は、支部の会員や支部役員を把握し、支部の運営を司る。
 - 2 総務幹事は、支部長を助け、支部の総務に関する事務を所掌すると共に、支部役員との連絡・調整を図る。
 - 3 総務副幹事は、総務幹事を助け、支部の総務に関する事務を所掌すると共に、支部役員との連絡・調整を図る。
 - 4 会計幹事は、支部長を助け、支部の会計および財産に関する事務を行う。
 - 5 幹事は、支部の各事業を受け持ち、事業の推進に協力する。
 - 6 監査指導委員長並びに監査指導委員は、JARLが規定する監査指導業務に当たる。
- 第6条 役員任期は、支部長の任期に連動し、役員は支部長が任命する。支部長は、必要に応じて、任期途中でも新役員を任命、又は罷免することができる。
- 第7条 役員会は、必要に応じて支部長が招集し、本支部の執行に必要な事項を決定する。
- (1)役員会の議事は、役員の見解を聞き、支部長が決する。
 - (2)役員会は、公開とし、支部会員は傍聴し、参考意見を述べることができる。
- 第8条 支部長、総務幹事、総務副幹事、会計幹事を支部四役と称し、危機管理、緊急な事項について協議することができる。この時は、次の役員会に報告し、

承認を受ける。

第9条 支部には役員他に、協力員を置くことができる。協力員は、役員の指揮のもと、個別の事業の推進に携わる。

第10条 役員会の内容については、外部に公表することを控えるべきと支部長が判断したもの以外は、公表を原則とする。

第11条 この会の組織にJARL渡島檜山支部監査指導委員会を位置づける。監査指導委員会は、役員以外からも選出することができる。

第11.条 事業年度及び会計年度は、日本アマチュア無線連盟定時社員総会に連動する。

別掲 2

DVD及び予算別シャックづくりパンフレットについて

1 DVDの構想

それは、「アマチュア無線がこんなに楽しい動画」、DVD、ネット配信です。どういふことかという、私の活動目標は、何回も言いましたが、渡島檜山の空を賑やかにすることです。そのためには、2つのことを掲げました。1つは、これからアマチュア無線を始めようとする方が増えるようにすること、もう1つは、一度アマチュア無線界を去った方にカムバックしてもらおうようにすること。どうやって縁を作っていくか。それで、「動画」を思いついたのです。

幸いにも渡島檜山支部には、いろんな楽しみ方をしている方がいます。私のように、パワーを出して、国内QSO(DXやないと、もったいないとよく言われます)を楽しんでいる方あり、また、CWが得意な方あり、モービルが運用主体の方あり、移動してスタックを組み立ててがんばる方やJCC(G)サービスを楽しむ方、パソコンを使って通信を楽しむ方、はんだごてを握るのが好きな方、開局間もなく2mが大好きな方、すてきなカードを手作りしている方などなど。

そんな方をインタビューしながら、その楽しさを語ってもらおうというもの。オールキャストは、渡島檜山支部の会員の皆様。それらを長い時間バージョンと、短い時間バージョンに編集して、支部のホームページからも見られるようにする。特に短い時間バージョンは、10分か15分の短時間で、全部のソースを入れ、アマチュア無線がこんなに楽しいっていうことを、一般の人に知らせようと思うの。青少年の集まりとか、シルバークラブの集まり、その他公的機関で協力してもらえそうな場面で、ちょっと時間を作ってもらって、かけてもらおうというもの。講習会の受講者にも全員配付したいですね。あと、特別局の公開運用を見に来てくれた方とか、科学の祭典でラジオを作っていた少年少女とか、ラジオ教室に参加したちびっ子たちとか、DVDの種を蒔いていきたいと思うのです。

あと、役員さんのシャック訪問というのもちょっと考えています。タワーがあるだけがシャックではありません。こぢんまりとしていても、GP1本でも、気持ちがアマチュア無線を愛する方に向いている方は、立派なアマチュア無線家であり、すばらしいシャックなのです。顔の見える支部運営をしたいなあと思っているのです。

この仕事、優先順位を高くして、取り組んでいきたいなと持っています。

2 予算別シャックづくりパンフレット

私が電話級の国家試験を受けに札幌の電波学校に行った時の思い出が出所となります。その時玄関でもらったパンフレットに予算別にアンテナや無線機が紹介されていました。何十万円だったか忘れましたが、タワーと八木アンテナ、そして固定機という組合せがあって、「いつかはこんなシャックにしたい」と幼心に思った記憶があ

ります。もちろん中学生にそんなシャックはできるはずもなく、2mのハンディ機+4分の1のGPからのスタートでした。

アマチュア無線をよくご存じのない方は、タワーのある家を思い浮かべ、相当にお金のかかるものであると思っているかもしれません。無線機+アンテナで数万円で開局できることなど、また、十数万円少して、HF機で全国と交信することができることなどの資料ができればと思っています。

予算は概略でかまいませんということで、ハムセンター(照会中)とドリームレディオ(NG)にお願いしてあります。

別掲 3

145MHzFMにおけるロールコールの実施要領(案)

1 目的

- (1)ロールコールを通して、JARL 渡島檜山支部の活性化を図るとともに、無線へのアクティビティーを高める一助とする。
- (2)自分の無線機やアンテナの調整をする機会とする。
- (3)通信技術の向上を図る。

2 主催 JARL 渡島檜山支部

3 日時 毎週第一土曜日午後8時より

4 参加対象 アマチュア局(支部管内管外、JARL 会員の有無は問わない)

5 会員への周知(ML)

ロールコール前日にOHBで、総務幹事より、メール発出。

6 ロールコールの記録

ロールコールキー局担当者は、次のことを記録し、総務幹事に引き継ぐ

- (1)期日
- (2)キー局名
- (3)参加者 コールサイン及び氏名 総参加者数
- (4)連絡事項
- (5)その他特記事項

総務幹事は資料を整理し、必要に応じて支部役員会に報告する。

7 当日の進行原稿(例)

(1)呼出

- ・「これより、145.※※※にて、JARL 渡島檜山支部2mFM ロールコールを開催致します。このロールコールは、JARL 会員、非会員、管内、管外 関係なくご参加頂けます。是非、お気軽にご参加下さい。こちらは、キー局、J〇8〇〇〇 〇〇市 〇〇です。宜しく、お願い致します。次回、145.※※※ にて、再度コール致します。」

(2)参加者受付

- ・「CQ CQ CQ、こちらはでは、J〇8〇〇〇 これより、第〇回 JARL 渡島檜山支部ロールコールを開催致します。参加局は、コールください。どうぞ。」

- ・「J△8△△△ こちらは、J〇8〇〇〇。こんばんは、59 です。どうぞ。」
- ・「他、どうぞ。」
- ・「最終コール、他いらっしゃいませんか。こちらは J〇8〇〇〇、どうぞ。」

(3)挨拶、連絡事項

- ・「今日は、〇局の参加です。JARL 渡島桧山支部の方から連絡があればお願いします。」支部長、総務幹事から、連絡。
- ・「では、参加の皆さんから、話題提供をお願いします。こちらに、こちらに、一度、コール下さい。どうぞ。」
- ・「参加局同士の連絡などありませんか。」

(4)終了

- ・「以上で、〇月〇日、第〇回 JARL 渡島桧山支部ロールコールを終了いたします。」
- ・参加「J△8△△△ こちらは、J〇8〇〇〇 さようなら。」
- ・「なお、次回の第〇回ロールコールは〇月〇日土曜日午後8時より行います。キー局はJ□8□□□です。よろしく申し上げます。各局、こちらは、J〇8〇〇〇 。さようなら。」

※冗長にならないように長くても 30 分程度で終了する。

8 司会局(キー局)の輪番について

キーは事前に総務幹事が調整する。役員、役員外に広くお願いしていく。

非常通信伝達訓練の実施について(案)

1 目的

- (1)非常時のアマチュア無線のあり方について、訓練を通して探りながら、当支部としての体勢を整えていく。
- (2)それぞれの局が、非常事態に対する無線機器類の整備をすると共に、奉仕する体勢を整えていく。
- (3)非常時を含むアマチュア無線の存在価値を広く、地域や市民に知らしめていく機会とする。
- (4)アマチュア無線による情報の収集状況を、市の災害対策当局に参観いただき、協力体制を確立する。

2 日時 令和3年春 午前10時から1時間程度

3 想定する状況

令和3年訓練日の前日午後10時過ぎに、道南地方の海底を震源とする地震が発生した。5メートルの津波が函館市・北斗市の海岸を襲い、海岸に近い低地においては多くの被害に見舞われた。また、それ以外の部分においても、多くの建物が倒壊した。また、道南一帯が停電となり、真っ暗な夜を迎えた。さらに、携帯電話もほとんど通じない状況、固定電話も、全滅に近い状況になっている。また、電源が確保できないなどの理由からインターネットの利用もほぼ壊滅状態となっている。

一夜明けて、被害に遭った人々は、函館市内・北斗市内・七飯町内などの避難所に集まって来た。その当日の食料や水は、何とか備蓄で補えているものの、それぞれの市役所や役場は、通信が確保できないことから、その実態をつかめておらず、食料や水、衣類、毛布などの物資をどのような配分するのが良いか、悩んでいるところである。

市当局は、市役所アマチュア無線クラブを通じて JARL 渡島檜山支部に対して、災害の救援を道南のアマチュア局への協力を求めた。支部として、この依頼を受け、災害の救援のため、アマチュア無線を利用し、基地局ボランティア及び避難所ボランティアを募り、午前10時より、通信を行うことを決めた。

4 訓練の内容

(1)非常通信の定義

非常通信(地震、台風、洪水、津波、雪害、火災、暴動その他非常の事態が発生し、又は発生するおそれがある場合において、有線通信を利用することが

できないか又はこれを利用することが著しく困難であるときに人命の救助、災害の救援、交通通信の確保又は秩序の維持のために行われる無線通信をいう。
(電波法第 52 条)

(2) 今回の訓練と法的な解釈

今回の訓練においては、非常事態が発生した後、有線通信を利用することができない状況のもとで、災害の救援や交通通信の確保ということになる。

したがって、今回災害対策本部に隣接して設置(仮定)される我々の基地局が、避難所とのやりとりを通して、災害の救援を行うということを主眼としたい。災害情報の収集についても、本訓練の目的の一部とするが、その主たる任務は消防・警察の方で行うものとする。

(3) 通信の方法

基地局と避難所との通信を本訓練の要とする。避難所からの情報を災害対策本部に知らせると共に、災害対策本部からの支援状況について、避難所へ伝えるものとする。また、基地局より、消防署職員に正確かつ迅速に、避難所の状況を報告するものとする。

(4) 基地局の設置 函館市役所 函館市東雲町 4 番 13 号 電話 0138-21-3111

- ① 無指向性の比較的利得のある 145MHz、430MHz 共用のグランドプレーンアンテナを利用する。
- ② 無線局は函館市役所アマチュア無線クラブの50ワット機を利用する。
- ③ 電源は、商用電源が止まっていることを想定し、バッテリーを利用する。
- ④ 使用周波数は、433.66 のレピータと、145MHz のFMとする。
- ⑤ 移動局の割り振り

基地局で参加する以外の参加局については、地元の避難場所、避難指定の会館などに赴き、ハンディトランシーバー若しくは、モービルトランシーバーから参加するものとする。原則、移動しての運用としたい。

(5) 反省会の実施

訓練・後始末終了後、基地局、移動局の参加者は、函館市内の喫茶店、レストランなどで、昼食を取りながら、当日の反省、次年度へ向けての改善点などを話し合う。

5 通信内容

通信内容は、避難所の災害支援に関わる内容とする。実際には、今回クンレンする内容に加えて、さらに食料や毛布の充足状況なども付加されることが予想されるが、クンレンであること、多くの方に参加してほしいという時間短縮の観点から、報告事項を絞った。

(1) 想定される通信内容について(レピータ運用)

基地局(以下サブチャンネル)「クンレン、クンレン、クンレン、こちらは、JA8YUP/8 オペレーター〇〇です。ただいまより、JARL 渡島檜山支部非常通信伝達訓練を行います。昨日発生 of 道南地方を襲いました地震の影響を受け、道南一帯は停電し、通信インフラなども機能しない状況にあります。各避難所ボランティアにおいては、避難所の状況について、報告をお願いします。(繰り返し)尚、通信においては、次の事項について、順次報告をお願いします。

- ①現在位置(町名及び避難所名)、
 - ②了解度
 - ③無線設備状況(ハンディ or 車載器)及びアンテナ
 - ④避難所の様子
 - ・避難者の人数男性〇名、女性〇名、うち子ども〇名。
 - ・特段に怪我や支援が必要とされる人数及び状況(繰り返し)
- それでは、クンレンを始めます。参加局は応答下さい。」

移動局 A「こちらは、JA〇〇〇/8」

基地局「クンレン クンレン クンレン JA8〇〇〇/8 こちらは JA8YUP/8 了解度 5です。そちらの避難所情報を送って下さい。どうぞ。」

移動局「クンレン クンレン クンレン JA8YUP/8 こちらは JA8〇〇〇/8 函館市銭亀町 銭亀町自治会館移動です。了解度、ハンディ機と付属ホイップアンテナからのオンエアです。現在当会館には、男性8名女性7名計15名が避難しております。子どもはいません。うち老人の男性が左足をガラスで切り出欠しておりましたが、現在までに応急処置を済ませております。以上報告します。JA8YUP/8 こちらは JA8〇〇〇/8 どうぞ。」

基地局「クンレン クンレン クンレン JA8〇〇〇/8 こちらは JA8YUP/8 オペレーター〇〇。〇〇さん、銭亀町自治会館の情報、男性〇名、女性〇名、子どもなし、応急手当完了。全て了解いたしました。引き続き、情報収集に努めて下さい。JA8〇〇〇/8 こちらは JA8YUP/8 さようなら」

移動局 A「クンレン クンレン クンレン JA8YUP/8 こちらは JA8〇〇〇/8。了解しました。引き続き情報収集に努めます。JA8YUP/8 こちらは JA8〇〇〇/8 さようなら。」

基地局「引き続き行います。クンレン、クンレン、クンレン、こちらは、JA8YUP/8 オペレーター〇〇です。どうぞ。」

移動局 B「こちらは、JH8〇〇〇/8」

基地局「クンレン クンレン クンレン JA8〇〇〇/8 こちらは JA8YUP/8 了解度

は5です。そちらの避難所情報を送って下さい。どうぞ。」

移動局 B「クンレン クンレン クンレン JA8YUP/8 こちらは JH8〇〇〇/8 北斗市ノ渡 市ノ渡公民館移動です。了解度は5、車載機20ワット、アンテナは5/8ラムダモービルホイップです。現在市ノ渡公民館には、男性14名女性18名計32名が避難しております。そのうち子ども6名おります。整然と避難し、特異状況はありません。以上報告します。JA8YUP/8 こちらは JH8〇〇〇/8 どうぞ。」

基地局「クンレン クンレン クンレン JH8〇〇〇/8 こちらは JA8YUP/8 オペレーター〇〇。〇〇さん、市ノ渡公民館の情報、男性14名、女性18名、うち子ども6名、整然と避難している件、全て了解いたしました。引き続き、情報収集に努めて下さい。JH8〇〇〇/8 こちらは JA8YUP/8 さようなら」

移動局 B「クンレン クンレン クンレン JA8YUP/8 こちらは JH8〇〇〇/8。了解しました。引き続き情報収集に努めます。JA8YUP/8 こちらは JH8〇〇〇/8 さようなら。」

(以下このような流れで)

基地局「クンレン、クンレン、クンレン、こちらは、JA8YUP/8 オペレーターは、〇〇です。他に参加局がないようですので、これにて、非常通信伝達訓練を終了いたします。引き続き、145MHzに移ります。レピータ参加局以外での報告を募ります。なお、時間のある方は、引き続き、145MHz帯の訓練状況も聴取下さい。以上で 433.66MHz レピータを利用した非常通信伝達訓練を終了いたします。こちらは、JA8YUP/8 オペレーター〇〇でした。さようなら。」

※通信のポイント 呼出し、応答に際しては、「クンレン」3回前置するものとする。
通信の終わりには「さようなら」を送信する。

(2)通信の記録等

- ① 移動局については、今回の訓練内容を的確に正確に送信するために、手元にメモを置き、送信するものとする。
- ② 基地局については、移動局からの情報を的確に受けるため、報告用紙を作成するものとする。

6 推進日程

〇月〇日 支部役員会で期日、場所等決定

〇月〇日 函館市役所AMCと連携し、函館市役所災害対策の当局との調整、当日の立ち合い、アンテナ設置許可。

- 月○日 OHS、支部ホームページ、支部情報誌
145MHzメインチャンネルで周知。
連絡の取れにくい役員については、電話で案内。
報道機関(北海道新聞、函館新聞)に連絡
- 月○日 函館市役所 下見
- 月○日 当日
- 月○日 報告書の公表

7 基地局で準備するもの ()に担当者

- (1) 145Mhz、430MHzFMの50W無線機 JA8YUP 所有 ()
※必要に応じて予備無線機
- (2) グランドプレーンアンテナ及び同軸ケーブル ()
※必要に応じて予備アンテナ
- (3) ロープなどアンテナ設置用具 ()
- (4) バッテリー、電源ドラム等 ()
- (5) 記録用紙及び筆記用具 ()
- (6) 記録写真撮影 ()

8 役割分担

(1) 事前

- ① 函館市役所との連携、公文書発送 ()
- ② 報道機関への連絡 ()
- ③ ハムショップなどへの掲示 ()
- ④ ホームページでの周知 ()
- ⑤ 反省会場の確保 ()

(2) 当日

- ① 全体指揮・責任者 ()
- ② アンテナ設営・無線機・電源用意 () () ()
- ③ 無線オペレーター () ()
- ④ 反省会議のしきり ()

(3) 事後

- ① 関係機関への礼状の発送
- ② 報告書の作成、公表
- ③ 次年度の支部広報の原稿依頼

9 予算(支部予算より)

関係機関との通信料

10 最後に

災害は、いつ、どこで、どのような形で襲ってくるか、予想がつかない場合が多い。得体の知れない災害に対してではあるが、我々アマチュア無線を愛好する者としては、それぞれが可能とする範囲の中で、ボランティア精神を持ち、人命の救助、災害の救援などを行うという意識を持つことが大切である。

また、支部としても、非常通信実施に備えて、支部としての組織体制、救援体制をマニュアル化し、関係当局(各市町村や消防など)との協定を結んでいく必要がある。

別掲5

月替わりONLINE渡島檜山支部アワードについて(案)

- 1 目的 渡島檜山支部会員の無線のアクティビティー向上を図る。
- 2 主催 JARL渡島檜山支部
- 3 方法
 - (1)毎月、1日に支部がアナウンスする文字列を交信した局のサフィックス(2文字または3文字のいずれか、また複数を利用)で綴る。
 - (2)そのうち、5局は渡島檜山支部管内の局(他からの移動局も含む)とする。
 - (3)交信は、全バンド全モードを可能とする。バンドやモードが異なれば、一局を複数文字に使うことができる。同一バンドで同一モードは、日時が違っても一局とする。
 - (4)その月の文字を綴ることが出来たら、ログ(コールサイン、日付、時刻、バンド、モード、支部管内局がわかる記録)を支部長にメールまたは、郵送で送る。
 - (5)受付順に支部のホームページに参加者のコールサインを発表する。

例 OSHIMA HIYAMA

O JM4UAO 7/1 16:40 7MHz SSB

S JA7VSV 7/3 12:40 14MHz CW

H JH8CBH 7/4 18:40 3.5MHz SSB 支部管内

I 7K1LVI 7/5 06:32 7MHz SSB

M JR6MPK/8 7/2 13:52 18MHz SSB 支部管内

A JE8HLA 7/3 21:40 145MHz FM 支部管内

H JH8CBH 7/4 18:50 3.5MHz CW 支部管内

I JK1LVI 7/5 08:20 10MHz CW

Y JR9YBY 7/1 18:20 1.9MHz CW

A JM8VAO 7/4 18:10 145MHz FM

M JA8MEM 7/3 13:55 145MHz FM 支部管内

A JA3NAN 7/5 09:23 7MHz SSB

①テールレターで OSHIMAHIYAMA と綴られている

②管内局が5局入っている。

③JH8CBH はモードが違うので OK

④JR6PKM/8 は、管内の局なので、支部管内でカウント
コールサインの一部は架空のものです。

4 表彰

3か月連続、6か月連続、1年連続、1年間6回以上参加の方には、賞状を贈る。

5 役割分担

- ①集約 担当者
- ②点検 担当者
- ③ホームページ担当者
- ④賞状 担当者
- ⑤広報 担当者

6 予算 賞状用紙及び印刷 1000円程度

7 推進日程

9月27日 支部役員会で提案 担当者決定

○月○日 月替わりONLINE渡島檜山支部アワードの周知(OHS、HP、支部報、
ハムショップ)初回の課題は事前通知(OSHIMA HIYAMA)

○月1日 アワード開始 随時受付、HPへのアップ

○月末日 アワード締め切り

○月1日 次の課題のアナウンス

※とりあえず、半年間続けてみる。

2020年度支部費収支報告書

10月5日まで報告

本部長	支部長	支部会計

2020年4月1日から2021年3月31日まで

渡島・檜山支部

科 目	2020年度予算額	2020年4～6月		2020年7～9月		2020年10～12月		2021年1～3月	
		第1四半期額	累計額	第2四半期額	累計額	第3四半期額	累計額	第4四半期額	累計額
前年度繰越高	22,038	22,038	22,038	170,638	22,038	170,638	22,038	170,638	22,038
収入	支部費	148,600	148,600	0	148,600	0	148,600	0	148,600
	賞典収入	0	0	0	0	0	0	0	0
	寄付金収入	0	0	0	0	0	0	0	0
	受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0
	雑収入	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	148,600	148,600	0	148,600	0	148,600	0	148,600
支出	会議費	3,000	0	0	0	0	0	0	0
	催物費	98,000	0	0	0	0	0	0	0
	渉外費	0	0	0	0	0	0	0	0
	通信費	12,000	0	0	0	0	0	0	0
	交通費	0	0	0	0	0	0	0	0
	消耗品費	12,000	0	0	0	0	0	0	0
	事務印刷費	15,000	0	0	0	0	0	0	0
	コンテスト費	5,000	0	0	0	0	0	0	0
	賞典費	0	0	0	0	0	0	0	0
	非常通信費	3,000	0	0	0	0	0	0	0
	諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0
	雑費	600	0	0	0	0	0	0	0
小計	148,600	0	0	0	0	0	0	0	
次期繰越高	22,038	170,638	170,638	170,638	170,638	170,638	170,638	170,638	

JARL渡島檜山支部役員体制及び事業推進分担

支部四役(危機管理担当)

支部長	JH8CBH
総務幹事	
総務副幹事	
会計幹事	

監査指導委員

監査指導委員長	JH8CBH
監査指導委員	JE8OGI
監査指導委員	
監査指導委員	

ガイダンス運用には、第三級陸上特殊無線技士の資格が必要。現所有者かこれから取得される方が望ましい。

担当事業	主担当	担当	担当
事業全体の調整	支部長	総務幹事	総務副幹事
支部報・広報			
ホームページ			
メーリングリスト			
勧誘DVD及びパンフレット作製			
支部大会・前夜祭			
電波教室・青少年のための科学の祭典			
コンテスト			
ロールコール	総務幹事		
アマチュア無線に関する講座			
フォックスハンティング			
非常通信伝達訓練			
養成講座関係			
飲みにケーション			
特別局			
監査指導(啓発活動)			
監査指導(ガイダンス局)80条関係	OGI	CBH	
新規HAM開拓			
カムバックHAM開拓			
地域クラブ再生			
月替わりアワード			
ミニ講座(スキルアップ)			
免許切れへの対応	支部長	総務幹事	総務副幹事
支部の備品管理			

全ての業務に支部長は関わりますが、全体調整以外は、支部長以外を主担当とし、計画の立案をお願いします。一人3つか4つの主担当をお願いします。またサブの担当もお願いし、主担当を助けてあげてください。

それぞれの主担当は、約一か月をめぐりにそれぞれの担当者と連絡を取りながら、実施計画を立ててください。もちろん全ての計画に支部長総務幹事、及び総務副幹事は相談があれば、よい方向を一緒に考えます。

実施計画案の例(必ずしもこの通りでなくてもいいですが、役員でイメージが共有できるように)

- 1 事業業名
- 2 経過(あれば)
- 3 目的
- 4 期日・期間・日時など
- 5 場所
- 6 対象
- 7 主管(主に担当する方)及び担当者(役員以外の協力員も含む)
- 8 実施計画
 - (1)当日の日程
 - (2)会場図(必要に応じて)
 - (3)内容の次第
 - (4)昼食(必要に応じて)
 - (5)担当者
 - (6)必要な物品
 - (7)事前・事中・事後の動き
- 9 渉外関係(総務幹事と連携をとる) 来賓、訪問先、場所借用、報道対応など
- 10 予算(総務幹事、会計と連携をとる)
- 11 今後の推進日程
- 12 その他